

| | | | |
|-----------|--|------|---|
| 講義名 | マーケティング・プレゼンテーション論 | | |
| 科目区分 | 学部専門科目 | | |
| 担当教員 | 清水 信年 | | |
| 開講期・曜日・時限 | 後期 火曜日 3時限 | 授業形態 | |
| | 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 福祉マネジメントコース/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービス心理コース/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 スポーツ健康マネジメント/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービスマーケティング/2014年度 サービス産業学部 | | |
| 履修開始年次 | 3年生 | 単位数 | 2 |
| | | 備考 | |

主題と概要

第一線で活躍するメーカーたちは、日々の業務のなかでプレゼンテーションを行う機会に数多く直面します。新製品の企画会議や社外向け発表会、ブランド理念の共有ミーティング、取引業者に対する営業活動や販売促進、広告展開のためのコンセプト提案、などのように、自らが扱う製品・サービスの良さを相手に伝えることができなければ、メーカーの存在価値はないに等しいと言ってもよいでしょう。本講義では、マーケティング活動を成功へと導くために必要な、魅力的なプレゼンテーションを実施するための考え方や手法の理解を身につけることを目指しています。ゼミなどで商品企画イベントなどに参加する予定がある学生にとっても、役立つ内容です。

到達目標

マーケティングの現場で求められる実践的なプレゼンテーションを行う能力を身につける。

提出課題

講義期間において数回、レポート提出を求めます。 また、プレゼン実習も行います。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

ケーススタディやプレゼン披露に対する講評・解説は該当回に必ず行います。

評価の基準

講義内容に関する数回のレポート提出 (約40%)
 グループワークの内容に関する評価点 (約50%)
 期末レポートの提出 (約10%)
 期末試験は行いません。

履修にあたっての注意・助言他

上記の「評価の基準」にある「グループワーク」については、受講者を数名ずつのグループに分け、プレゼンテーションのための作業を実習していただきます。その成績評価は、各グループの作業内容だけではなく、各グループ内でそれぞれのメンバーがどれだけ貢献できたかという側面も評価します。したがって、講義時間に教室に来て座っているだけでは、単位の取得はほぼ無理であることをあらかじめお断りしておきます。また、講義時間以外にグループワークをするための作業時間が必要である、ということもご理解ください。(ただし、もし履修者数が想定よりも少ない場合は、グループではなく個人でプレゼン実習にのぞんでいただきます。)

上記の点も含めて、本講義は一般的な講義スタイルとはかなり異なるやり方で行う予定なので、初回講義の際のガイダンスには必ず出席することが必要です。

| | |
|-----|----------|
| 教科書 | |
| | . 使用しない。 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

プリント資料及び参考文献

適宜、指示をします。

授業計画

- 1 マーケターにとってのプレゼンテーション
- 2 魅力的なマーケティング・プレゼンテーションの構成要素
- 3 プレゼンテーション評価のケース・スタディ①
- 4 プレゼンテーション評価のケース・スタディ②
- 5 プレゼンテーション評価のケース・スタディ③
- 6 プレゼンテーション評価のケース・スタディ④
- 7 プレゼンテーション評価のケース・スタディ⑤
- 8 プレゼンテーション評価のケース・スタディ⑥
- 9 マーケティング・プレゼンテーションのグループワーク①
- 10 プレゼンテーション実行演習会
- 11 マーケティング・プレゼンテーションのグループワーク②
- 12 プレゼンテーション披露会①
- 13 プレゼンテーション披露会②
- 14 プレゼンテーション披露会③
- 15 プレゼンテーション披露会④

※履修人数によってスケジュールを一部変更することがあります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

- ア：PBL（課題解決型学習）
- イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
- ウ：ディスカッション、ディベート
- エ：グループワーク
- オ：プレゼンテーション
- カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- * 講義回の復習：1時間×1回=1時間
- * ケース・スタディの復習：1時間かける6回=6時間
- * プレゼン実習のための準備作業：23時間

合計 30時間

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義回の大半は座学形式ではないものであり、教員と学生とが直接、双方向のコミュニケーションをとることが前提です。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり（当科目の内容に関連なし）。

備考